

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会

地域日本語教育コーディネーター養成研修事業及び 日本語学習支援者研修プログラム普及事業報告

特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)コーディネーター
一般社団法人多文化社会専門職機構 理事
新居みどり

多文化社会専門職機構 概要

<http://tassk.org/>

一般社団法人 多文化社会専門職機構 略称: TaSSK(Tabunka Shakai Senmonshoku Kikou)

英語名: The Institute for Multicultural Society Professionals 設立: 2017年2月

所在地: 東京都千代田区神田神保町2-3神田古書センター6F内

設立趣旨

多文化社会の問題解決に取り組む実践者や研究者を対象に学びとネットワーク形成の場を提供するとともに、多文化社会の問題解決に貢献できる専門職の認定事業を通じて多文化共生社会の実現を目指す。

1. 認定事業: 多文化社会コーディネーター認定プログラム 相談通訳者協働実践研究
2. 実践研究事業: 多文化社会コーディネーター協働実践研究
3. 社会発信事業: 多文化社会実践研究フォーラム
4. その他事業: 対話の場づくりプログラム

国際活動市民中心 概要

<http://www.cinga.or.jp/>

NPO法人国際活動市民中心

Citizen 's Network for Global Activities ≪CINGA/シンガ≫

■特徴:外国人の支援を行う専門家集団/ネットワーク組織/中間支援組織

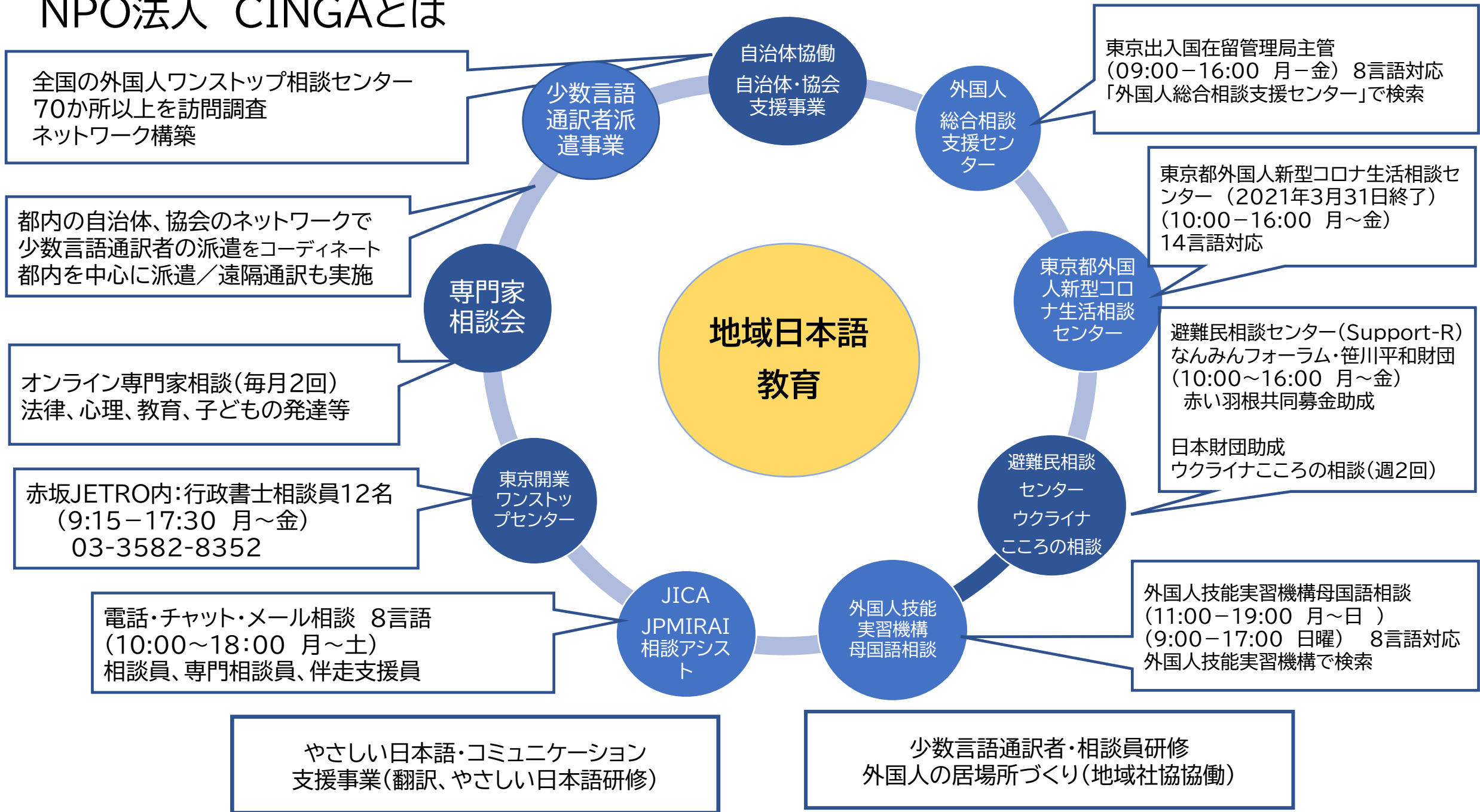
弁護士、行政書士、心の相談、労働相談、社会福祉士、社会保険労務士、通訳者

日本語教師、メディア関係者、協会職員などが専門性を活かして市民活動を行っています。

■会員数47名、職員数(非常勤含む)57名、2022年度事業予算 3億1000万円

■東京都千代田区神田神保町2-3神田古書センタービル6F 03-6261-6225

NPO法人 CINGAとは

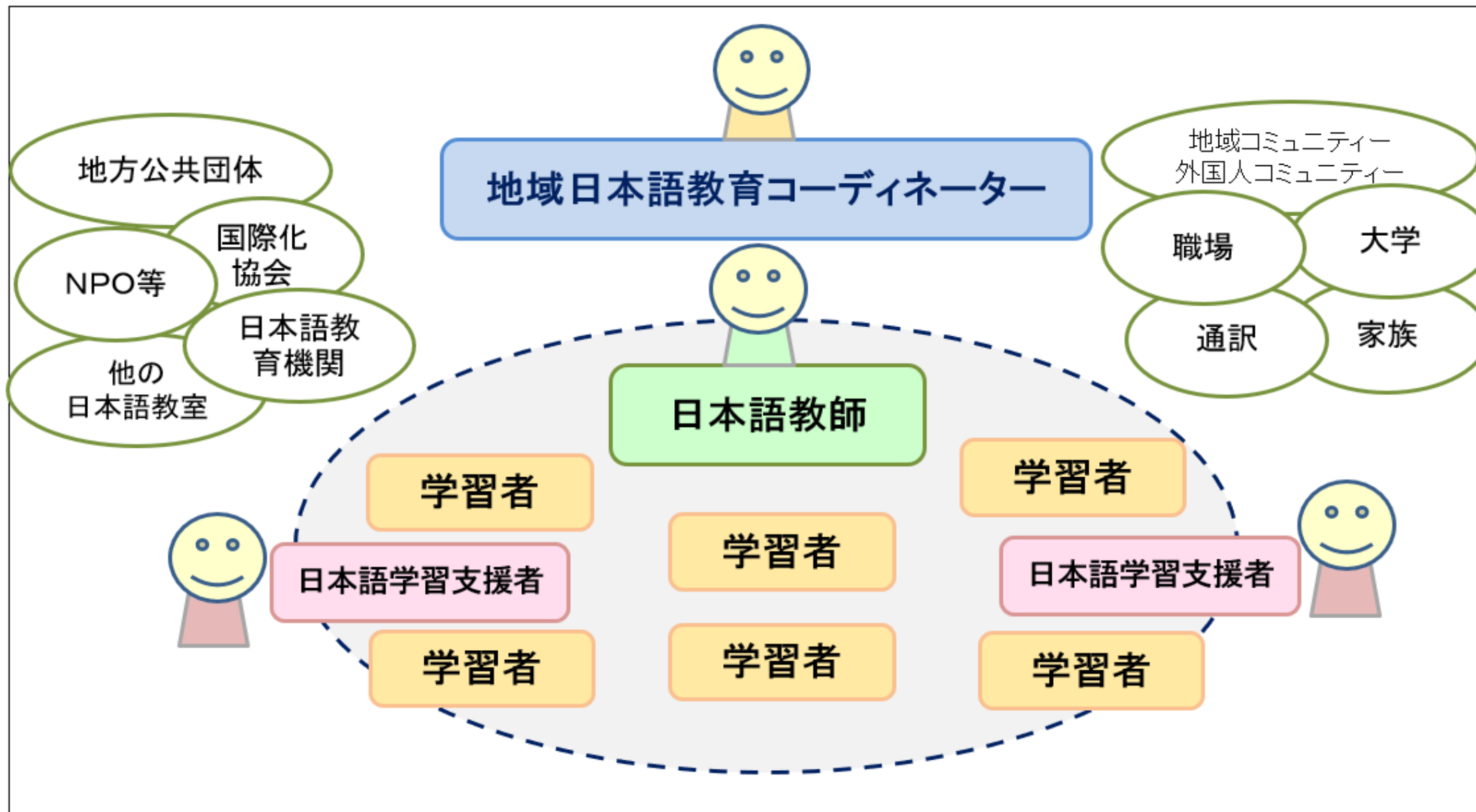


はじめに

■キーワード

- ・地域日本語教育コーディネーター
- ・日本語学習支援者
- ・日本語教師

■地域日本語教育の担い手育成概要・課題・今後の在り方



「新制度における日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ」（文化庁）

地域日本語教育コーディネーター研修のねらい

1. 自治体施策・国際交流協会事業・市民活動等の現場で、地域日本語教育コーディネーターとして地域日本語教室を運営することができる人材を育成する。→ 地域日本語教育コーディネーター研修
2. 「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」における総括コーディネーターを主な対象者として想定し、地域日本語教育コーディネーター育成のための研修の企画・運営、講師等を担うことができる人材を育成する。→ 地域日本語教育コーディネーター講師育成研修
3. 研修用の動画教材を作成することにより研修実施のための資源を開発し、研修を持続的に実施できるようにする。



2021年度 研修概要 コーディネーター研修

夏期研修 I【動画視聴】 2021年 8月18日(水)～ 8月31日(火)

夏期研修 II【演 習】 (東日本) 2021年 9月 1日(水)10:00-17:00
(西日本) 2021年 9月 3日(金)10:00-17:00

秋期研修 【演 習】 (東日本) 2021年11月18日(木)10:00-17:00
(西日本) 2021年11月19日(金)10:00-17:00

冬期研修 【演 習】 (東日本) 2022年 2月17日(木)10:00-17:00
(西日本) 2022年 2月18日(金)10:00-17:00

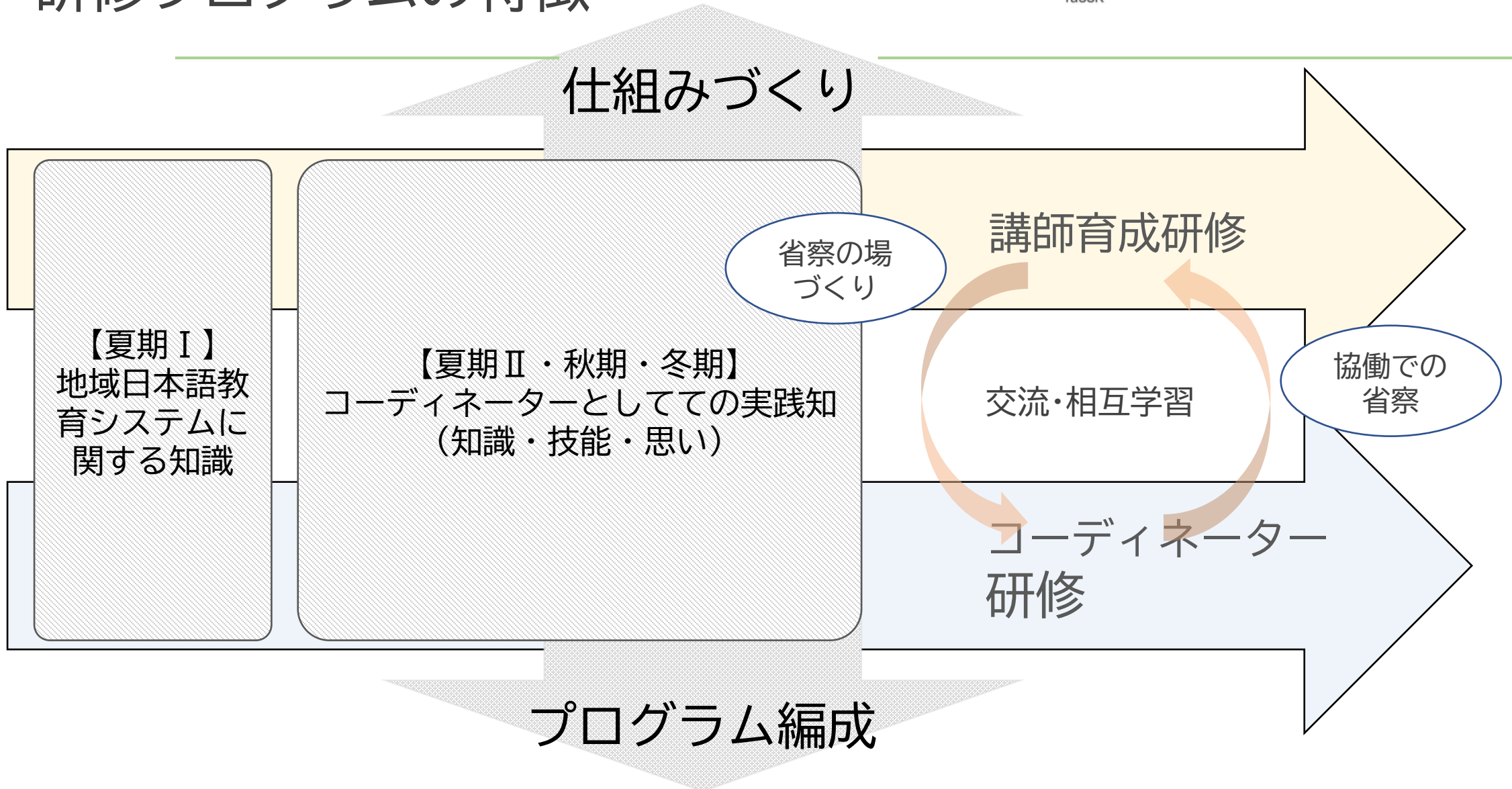


研修概要 講師育成研修

- | | |
|--------------|--|
| 夏期研修 I【動画視聴】 | 2021年 8月 18日(水)~9月11日(土) |
| 夏期研修 II【演 習】 | 2021年 9月 12日(日)10:00-17:00 |
| 実践モニタリング | 2021年 9月~2022年 1月
協働研究者が実践現場に赴き、協働でモニタリング
(現状分析、省察)を実施 |
| 秋期研修 【演 習】 | 2021年11月 29日(月)10:00-17:00 |
| 冬期研修 【演 習】 | 2022年 2月 28日(月)10:00-17:00 |



研修プログラムの特徴





研修プログラムの特徴

日本語教育コーディネーターは、
地域における学びの場をつくりだす役割がある。地域課題を設定し、
多様な人の参加を促し、共に活動をつくることが求められる。
そのため、地域日本語教育を専門とする研究者・実践者だけでなく、
コーディネーター論をはじめとして多文化社会に関連する様々な
専門領域の研究者・実践者と、多様な観点で広く学ぶ必要がある。



研修の実施状況

○ 修了者

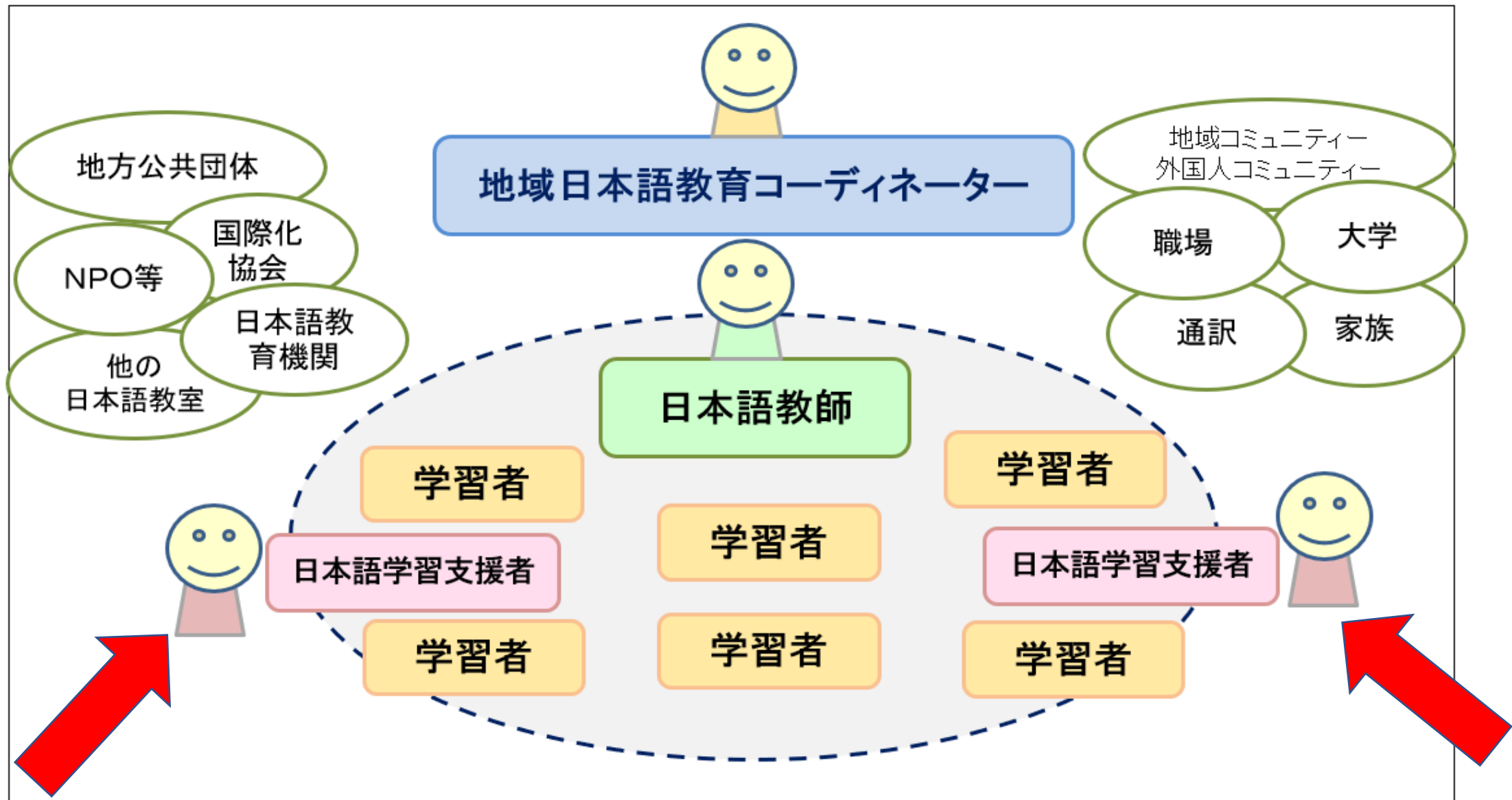
地域日本語教育コーディネーター研修37名(東日本23名、西日本14名)

地域日本語教育コーディネーター講師育成研修10名

地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修62名

○ ネットワークの場

「夏期研修Ⅰ」(動画視聴)、「夏期研修Ⅱ」(演習)のほか、「にほんごカフェ」(2回)等の実施を通じて研修コース・地域を超えた学びの場、ネットワーキングの場づくりを図る。

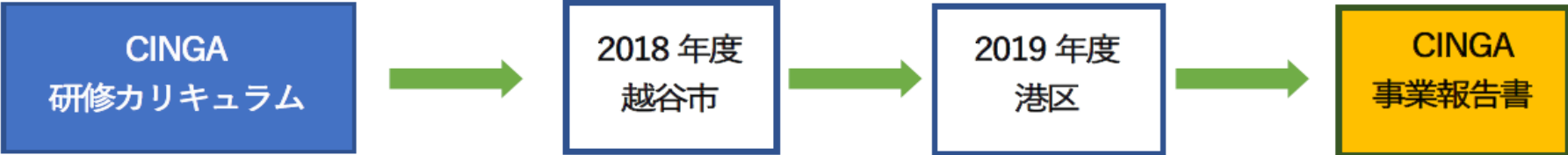


「新制度における日本語教育人材の役割・段階・活動分野に応じた養成・研修のイメージ」（文化庁）

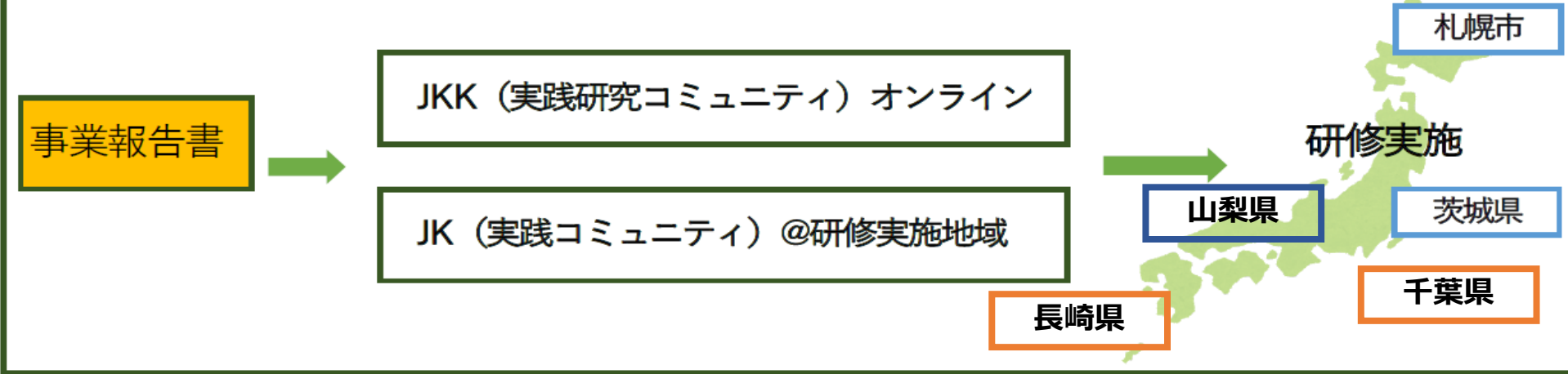
日本語学習支援者研修プログラム 普及事業

2018-2020 【文化庁委託 CINGA 日本語学習支援者に対する研修カリキュラム等開発事業】

上記「報告」に示された日本語学習支援者に求められる資質・能力を学ぶための研修カリキュラム作成後、埼玉県越谷市・東京都港区の二ヶ所にて研修実施



【文化庁委託 CINGA 日本語学習支援者に対する研修プログラム普及事業】



日本語学習支援者に求められる／望まれる資質・能力

	知識	技能	態度
日本語学習支援者	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日本語や日本文化, 社会, 多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。 (2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。 (3) 学習者の来日の経緯, 国や言語・文化背景, 日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。 (4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション, コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。 (5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 分かりやすく伝えるために, 学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。 (2) 学習者の発話を促すために, 耳を傾けるとともに自身の発話を調整することができる。 (3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師とともに, 日本語学習を支援することができる。 (4) 学習者の状況を観察し, 日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら, 学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。 (2) 学習者の言語や文化を尊重し, 対等な立場で接しようとする。 (3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。 (4) 学習者が自ら学ぶ力を育み, その学びに寄り添おうとする。 (5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。

※表8「日本語学習支援者に求められる資質・能力」は, 表1～7を前提とするものではない。

第1回

学習者の背景理解

①学習者の背景に関する理解

を目指す現在までの政策の変遷

②多文化共生

を目指す国や地域の状況

を目指すための地域日本語教室とは

文化とは、多文化とは、
多文化共生とは

②多文化共生

とは何か

③コミュニケーションストラテジー

の捉え方

④異文化理解

研修の構造

●本図は研修の各回に「報告」内「教育内容：表2.2」がどのように含まれているかを表す。
また、第1回から5回の内容がどのようなつながりを持つ構造となっているかを表す。

- : 各回タイトル
- : 該当回での主な学習内容
- : 該当回以前の学習内容のつながり

第2回

相互理解と学習支援のための
コミュニケーションの基礎

②多文化共生

のための

⑥日本語学習支援 (a コミュニケーションスキル)

④異文化理解

⑥日本語学習支援 (c 対話型、OJT)

⑦コミュニケーション教育

第3回

市民活動としての学習支援の
方法とコミュニケーションの
ための日本語の特徴

②多文化共生

のための

⑥日本語学習支援 (a コミュニケーションスキル)

④異文化理解

⑥日本語学習支援 (c 対話型、OJT)

を生かして行う

⑥日本語学習支援 (b 活動の流れ)

⑦コミュニケーション教育

を行うための

⑧日本語の構造

第4回

地域日本語教室の実践

②多文化共生

のための

⑥日本語学習支援 (b 活動の流れ)

を行う

⑤地域日本語教育の多様性

④異文化理解

⑥日本語学習支援 (c 対話型、OJT)

第5回

コミュニケーション・
相互理解・日本語学習支援

②多文化共生

のための

⑥日本語学習支援
(a コミュニケーションスキル)

を用い

⑥日本語学習支援
(b 活動の流れ)

を体験する

④異文化理解

⑥日本語学習支援
(c 対話型、OJT)

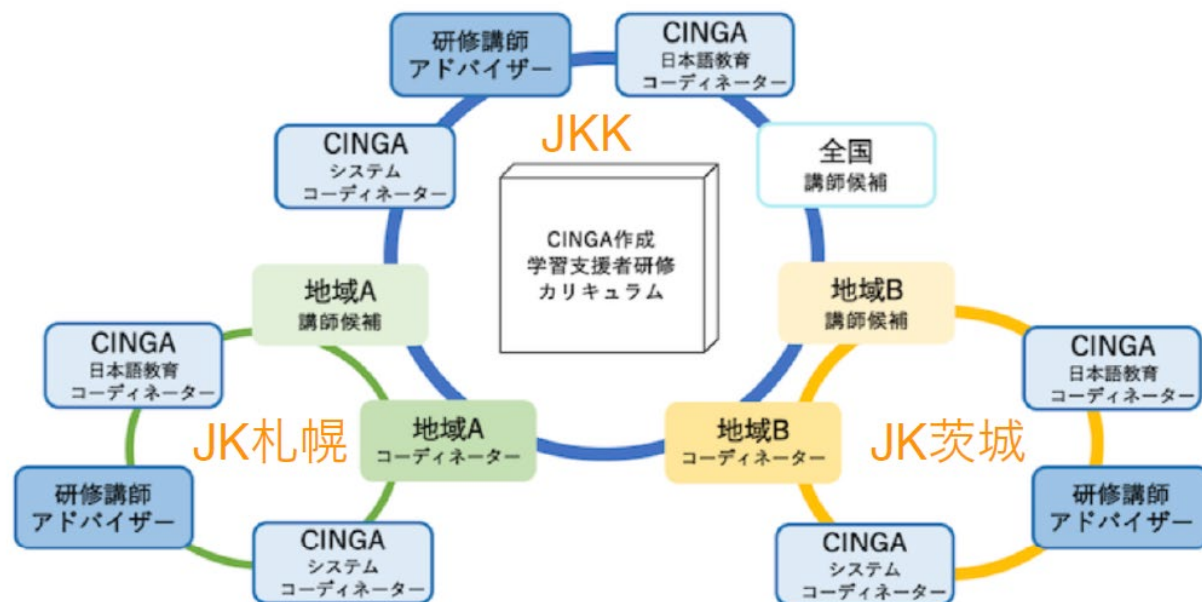
日本語学習支援者研修プログラム普及事業の理念 CINGA

- 自治体ごとの地域日本語教育体制に沿った学習支援者育成が重要
- 自治体職員、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、地域日本語教育のキーパーソン(研修会講師候補)がその地域の育成研修を一緒に考えつくりだすことが大切
- 長年活動をしている日本語学習支援者の人たちとの関係づくりをしつつ、地域の日本語教育におけるニーズをしっかりと把握する
- 地域日本語教育活動が、地域づくりになっているのかを問い続ける

日本語学習支援者研修プログラム普及事業

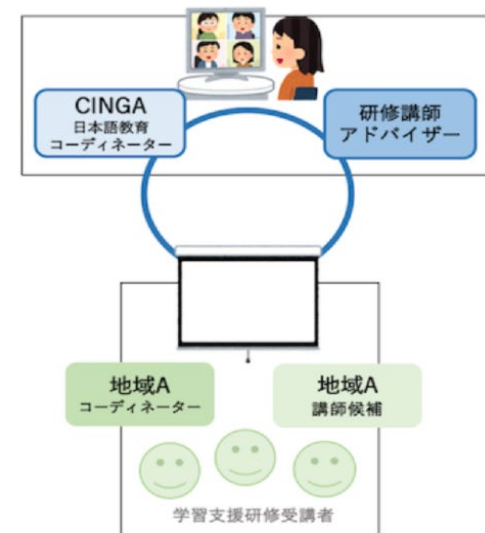
CINGA

c) 研修講師・コーディネーターの育成（全体像）



研修プログラムの実施

c) 研修講師・コーディネーターの育成

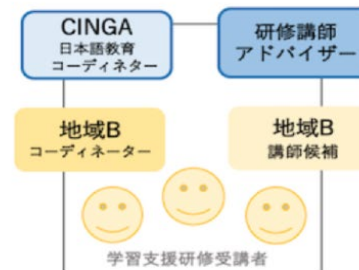


【地域A 実施案】

- ・ 2ヶ所に分かれる遠隔支援
- ・ CINGA日本語教育コーディネーター及び研修講師・アドバイザーは遠隔支援と遠隔による講義の担当も視野に入れる
- ・ 現地でのファシリテートは自治体のコーディネーターが行う

【地域B 実施案】

- ・ 現地での直接支援



実施期間	令和2年度								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(a) 研修プログラム実施委員会	[Blue arrow spanning from August to March]								
(b) 研修プログラムの実施				[Blue arrow spanning from November to February]					
(c) 研修担当講師の育成	[Blue arrow spanning from August to March]								
(d) その他関連する取組									

ポイント

- ① 関係者が研究会(協働実践コミュニティ)に参加する
- ② 研究会での対話を通して研修プログラムをつくりだす
- ③ 地域ごとの研究会にて、体制の在り方、地域に必要な学びの場(教室活動)を検討する
- ④ 関係者が講師となり研修会を実施する
- ⑤ 参加者が日本語学習支援者としての活動が生まれる
- ⑥ 理念を共有したコーディネーター、講師の力量形成ができ、その地域で高い実践活動ができるようになる

2020年研修実施地	札幌市	茨城県
協働先	公益財団法人札幌国際プラザ	公益財団法人茨城県国際交流協会
参加講師	3名	6名
コーディネーター	プラザ職員（日本語教師）	協会職員（統括コーディネーター） プログラムコーディネーター（日本語教師）
回数	3時間×5回	3時間×5回×2か所
研修実施方法	オンライン開催	オンライン開催

2021年研修実施地	千葉県	長崎県
協働先	公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー・ 千葉県国際交流センター、千葉県	公益財団法人長崎県国際交流協会、長崎県
参加講師	5名	2名
コーディネーター	センター職員（統括コーディネーター） プログラムコーディネーター（日本語教師）	プログラムコーディネーター（日本語教師）
回数	3時間×5回×2か所	プレフォーラム+2時間×5回
研修実施方法	オンライン開催	オンライン開催

ZOOMを使った

日本語学習支援者になるためのオンライン講座

「やさしい日本語」を使ってコミュニケーション!

外国人住民に寄り添った日本語学習支援者となることを目指して、コミュニケーションの基礎や、多文化共生などについて学ぶ講座をオンライン（Zoom）で開催します。講義のほか事例検討や話し合いを通して、受講者同士がともに考え学んでいく講座です。日本語教師の資格や、外国語の知識は問いません。これから日本語ボランティアとして活躍したい方におすすめです。

日程 2020年11月8,15,22日、12月6,13日
(すべて日曜日、全5回)
時間 13:00～16:00 (11/8のみ16:30まで)
※申込み方法などは裏面をご覧ください

日時	内容
第1回 11/8(日) 13:00-16:30	日本語学習者ってだれ? どこに? 日本社会における外国人や日本語教育の状況と、札幌市多文化?共生?基礎の基礎 「多文化共生」を考える前に、自分と他者の「ちがいのワークショップ」形式で楽しく学びます。
第2回 11/15(日) 13:00-16:00	相互理解と学習支援のためのコミュニケーション 日本語でのやりとりで慣れていない外国人と相互理解を行うためには、コミュニケーションに工夫がいります。「やさしい日本語」と「聴く・待つ」方法を演習で学びます。
第3回 11/22(日) 13:00-16:00	市民活動としての学習支援の方法とコミュニケーション 日本語学習支援のために、地域ボランティアとして活躍する方々には何が求められるのでしょうか。相互理解を深めるための支援をしていく方法を探しましょう。外国人の視点から学びます。
第4回 12/6(日) 13:00-16:00	相互理解を深めるための地域日本語教室の実践 多様な人々が集まり、共に活動する「地域日本語教室」が実現しているのでしょうか。相互理解を目指す活動や、それについて学びます。
第5回 12/13(日) 13:00-16:00	私たちの「多文化共生につながる日本語支援」 第4回で考えたアイデアを形にして、実際にグループで実践することで、次の一歩への自信になります。

↑ 札幌市

↓ 茨城県

新型コロナウイルス感染拡大状況により、オンライン開催に変更したコースもご自宅等で受講できますが、パソコンやタブレット等の視聴機器及びインターネット接続環境が必要です。

新しい茨城 下妻・坂東のための 日本語支援を考える会

開催場所 下妻：下妻公民館 大会議室 / 坂東：ペルフォーレ 視聴覚室

外国人市民が増えてきています。この講座では、外国人市民とともに暮らすこれからの茨城、坂東・下妻での地域づくりや多文化共生、コミュニケーションの取り方について考えます。

下妻会場	坂東会場	各講座の内容について(全5回)(予定)
1/17(SUN) 13:00-16:30 (初回のみ13:00-)	1/31(SUN) 9:00-12:30 (初回のみ9:00-)	第1回 「多文化」を考える —地域における多文化共生— 文化とは、多文化とは、多文化共生とは
1/24(SUN) 13:30-16:30	2/5(FRI) 9:30-12:30	第2回 相互の対話によって理解する —やさしい日本語を使って話そう— 外国人市民がわかる日本語で話す
1/30(SAT) 13:30-16:30	2/12(FRI) 9:30-12:30	第3回 市民活動としての交流活動を考える —どんなサポートができるだろう— 外国人市民も同じ仲間として考える
2/6(SAT) 13:30-16:30	2/19(FRI) 9:30-12:30	第4回 地域日本語教室を知る —日本語教室の活動紹介— やってみよう、対話で進める日本語学習支援
2/14(SUN) 13:30-16:30	2/26(FRI) 9:30-12:30	第5回 地域づくりと日本語学習支援を考える —地域参加につながる日本語学習支援を考えよう—

令和2年度茨城県「地域日本語教育の体制づくり事業」(文化庁採択)

チラシ作成協力：筑波学院大学4年 菅野 明々子

日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 in八街

—多文化共生のまちづくりをめざして—
〈オンライン開催〉

ご存じですか?

千葉県には163か所、16万7千人を超える外国人住民が暮らしています。(2020年12月末時点)
中には、日常生活に必要な日本語を身に付けたい、もっと日本人と話したいという方が少なくありません。この講座では、講義やグループワークを通して、お互いの文化を理解する上での心構え、日本語を第一言語としない人とのコミュニケーション、日本語学習支援の方法などについて学んでいきます。講座をとおして、自分などから多

・主催 千葉県 (公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー 受託)
・協力 八街市、八街市国際交流協会
・日時 10月30日(土)・11月6日(土)・11月20日(土)
12月4日(土)・12月18日(土)
13時～16時(全5回)

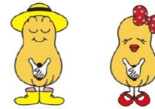


・内容 外国人学習者の背景理解、多文化共生、日本語学習日本語教室の実践、相互理解とコミュニケーション
・対象 18歳以上。八街市またはその周辺地域で行われる語学習支援、外国人との市民活動に興味がある方で座に出席できる方。講座修了後、千葉県国際交流センターへのご登録をお願いいたします。(登録いただいたら、日本語学習支援関連の活動、講座等の案内をお知らせいたします。)

・参加方法 オンライン(Web会議システムZoomを利用)パソコンやタブレット等の視聴機器およびインターネット接続環境が必要です。

・定員 30名 (先着順。ただし講座受講後に活動可能な地域を考慮いたします)

・受講料 無料



・申込方法 千葉県国際交流センターホームページ(<http://www.mccic.or.jp>)の日本語学習ページの応募フォーム、またはQRコードから。
・詳しい講座内容は裏面をご覧ください。
お申し込みはこちらから

お問い合わせ：ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター
TEL：043-297-0245 E-mail：nihongo@cceb.or.jp
応募フォームURL：<https://req.qubo.jp/mccic/form/R3nihongokisoyachimata>

↑ 千葉県

CINGA

↓ 長崎県

オンライン講座

ながさき Well-being 多文化共生の未来研究

多様な日本語コミュニケーションを考えよう

無料

定員 30名

(全5回すべて出席できる長崎県内にお住まいの方、先着順)
開催場所：オンライン (オンライン会議システムZOOM)

ご近所で、職場で、学校で、まちで、みんながよりよく長崎で働き暮らしていくための未来研究。多文化共生する市民にとっての日本語やコミュニケーションについて一緒に考え、行動しましょう!ご参加のみさんは、全員ながさき未来研究者となり、みなさんと一緒に語り合いながら進めていきます。多文化共生、地域づくり、外国人とのコミュニケーションに関心のある方ならどなたでもお気軽にご参加ください。

申し込み締め切り 1月7日

(定員に達し次第締め切らせていただきます)

本講座について

【文系】 令和3年度日本語教育人材の確保プロジェクト(事業)「多文化共生の未来研究」の一環として、多文化共生の未来研究を推進するための講座です。講座では、対話やグループワークを通じて、多様な日本語コミュニケーションについて一緒に考え、行動しましょう!ご参加のみさんは、全員ながさき未来研究者となり、みなさんと一緒に語り合いながら進めていきます。多文化共生、地域づくり、外国人とのコミュニケーションに関心のある方ならどなたでもお気軽にご参加ください。

申し込み方法

QRコードからフォームにてお申し込みください。
裏面の参加申し込み票からのお申し込みも可能です。
お申し込み後、メールにて受付確認およびZOOMの参加方法をご案内いたします。



ながさき Well-being
多文化共生の未来研究
多様な日本語コミュニケーションを考えよう
<https://bit.ly/3EoyZOI>

スケジュール
各回の事前課題として、30分-1時間を要する事前課題があります。

1/10(日) ZOOM 練習会 (希望者のみ)
ZOOM操作などにご不安のある方はご参加ください。
19:30 - 21:00

第1回 共に生きていくながさき
—「多文化共生」って何?—
19:30 - 21:30

第2回 やさしい日本語って何だろう?
—相手と自分の間にある壁を乗り越えよう—
19:30 - 21:00

第3回 ながさきで暮らすわたし
—多様な人のキモチ、思いを聴こう—
19:30 - 21:00

第4回 多様な人との日本語まなび場の
意味を考えよう
—「地域日本語教室」って何?—
19:30 - 21:00

第5回 多様な人との日本語
コミュニケーションをはじめよう
—Well-beingなわたしたちのながさきの未来を考えよう—
19:30 - 21:00

主催：NPO法人 国際活動市民中心 (CINGA)
共催：公益財団法人長崎県国際交流協会
協力：長崎県



地域における課題と今後の在り方



一般社団法人 多文化社会専門職機構

CINGA

■地域日本語教育体制整備と育成研修との連動が弱い

→日本語教育コーディネーター、日本語教師、日本語学習支援者をどのように配置し展開するのかを検討し、育成をする必要がある

■日本語教師、日本語教育コーディネーターの専門性認識が弱い

→正当な対価を伴うプロの力が地域日本語教育にこそ必要

■地域資源(日本語学校、大学、事業主、市民活動、社会福祉機関等)の活用が弱い

→「地域」日本語教育であるならば地域を巻き込んだ研修実施であるべき

■地域日本語教育の視点の広がりが重要 「この活動が地域づくりになっているのか」